

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立鳴鹿小学校

1 「まほろば協議会（家庭・地域・学校協議会）」の運営について

(1) 「まほろば協議会」の構成

＜地域 8名＞ コミュニティセンター長 区長会長 育成会長 老人会長 幼保園長 婦人会長 児童民生委員 まちづくり協議会委員長	
＜PTA 4名＞ 会長 副会長	＜学校＞ 校長 教頭 教務
地域コーディネーター（2名） コミュニティセンター長 どろんこ教室指導者	

(2) 協議会の内容

- 6月
- ・学校のスクールプラン検討
 - ・今年度の教育活動の概要
 - ・家庭・地域・学校の教育課題の把握
- 11月
- ・前期教育活動の報告
 - ・教育課題への取組みの報告
 - ・学校教育評価について
- 2月
- ・学校教育評価結果について
 - ・今年度の成果と次年度の課題把握

(3) 協議会における成果と課題

- ・第2回以降はまほろば協議会を学校公開日の日中に設定し、子どもたちの活躍の様子を参観したうえで協議することができた。
- ・老人会等の協力のもと、どろんこ教室（米づくりなど）、校庭の除草作業等を実施し地域の方との交流を深めることができた。
- ・学校行事や、各学年での地域探検等の教育活動に地域コーディネーターを活用し、児童の活動の充実を図るとともに安全確保に努めることができた。
- ・子どもたちの登下校の安心安全を確保するため、まほろば協議会にて子どもたちの通学路で心配な箇所をあげ、市に信号の設置を要望したり地域で見守り重点箇所の再確認をしたりした。見守り隊がない地域で野生動物が出たときには教師が付き添うことになるため、さらなる地域の協力が必要であるが、この点はなかなか改善できない。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本校はユネスコスクールとして、持続可能な開発のための教育（ESD）に取り組んでいる。この取組を通して、鳴鹿地区の様々な悩みや課題を見つけ探し出す。さらに、見つけ出した課題を改善するために、農業体験やふるさとの歴史学習を通して、地域の方と一緒に地域のよさについて調べ学習を進める。そして、鳴鹿地区をよくしていくには何をするとよいのかを考え実践し、ふるさと鳴鹿に誇りと愛着をもつ児童を育成する。

(2) 活動の実際 ～6年生の実践 鳴鹿の歴史を調べよう 届けよう服のカプロジェクト～

6年生は、鳴鹿コミュニティセンターの協力のもと、地域の歴史愛好家の方から説明を受けながら、六呂瀬古墳群や鳴鹿大堰を実際に見学した。鳴鹿の地区のすばらしい歴史や自然豊かで恵まれた地域であることを学ぶ中で、これからの鳴鹿の町づくりについて考えた。自分たちの町をこれからも盛り

(様式3)

上げたいという思いで、鳴鹿地区の未来像について話し合い、地域を盛り上げていくべくキャラクターの活用方法や町づくりのコンセプトのアイデアを出し合った。考えてまとめたことは、学校公開日に保護者や地域の方に発表した。

また、「届けよう服のカプロジェクト」では、服飾メーカーのユニクロが行っている事業に参加し、世界に数多くいる難民のために、余っている服（子供用）を集める活動を行った。服を回収するために、学校内だけでなく、地域にもちらしやポスターで宣伝活動を行った。地域の方に参加してもらうために、鳴鹿幼保園や鳴鹿コミュニティセンターなどにも回収ボックスを設置した。約2ヶ月の回収活動で、約140kgの服を回収することができた。



(3) 特に工夫した事項

- ・6年生は、地域のキャラクターの活用方法として、キャラクターを使用したキーホルダーやシールなどのグッズを作成し、保護者や地域の方に配布した。学校には、看板を設置した。また、自分達が考えた社会貢献活動を実現するために、鳴鹿幼保園や鳴鹿コミュニティセンターに協力を依頼し、回収範囲を広げた。
- ・子どもたちの自主的な活動になるよう、タブレット端末での調べ学習や発表用ボードを使っての話し合い活動、実物投影機を使っての発表など、ICT等を活用した取り組みを行い、考えを深めることができた。

2 地域コーディネーターについて

(1) 地域コーディネーター（2名）

- ①コミュニティセンター長（公民館長） ②どろんこ教室指導者

(2) 地域コーディネーターの活動概要

農業体験活動や地域での販売活動、地域の歴史学習等では、様々な団体やゲストティーチャーにお世話になっているが、①の方には、その方々との連絡調整役を担っていただいたり、公民館での販売活動についてのアドバイスをいただいたりした。②の方は、いろいろな作物の栽培に精通しているため、田植えや稲刈り、芋掘りなどでご指導・ご支援をいただいている。活動時にJAや老人会等との調整も引き受けていただいた。

3 成果と課題

これまでもふるさと鳴鹿に愛着をもっている児童は多かったが、今回自分たちで考えた活動がもつて以前よりも地域との交流を深められたことにより、更に地域とのつながりを感じることができた。様々な活動が学校内だけで留まるのではなく、地域へと広がることによって、自分たちのふるさと鳴鹿を「もっと知りたい」「もっとよくしたい」という気持ちにつながった。

現代は、ICTを活用することにより簡単に情報を得ることができる。一方、日常的には地域の方に聞いて調べる経験が少ない。正しい情報を見極める力を身につける学習と並行して、自分で調べたことを地域に出向いて確かめたり、地域の方から聞いたりする学習活動によって、児童一人ひとりの思いを深めることができると考える。地域には生きた教材がたくさん眠っている。今後も、地域とつながった、地域に根付いた教育活動を行っていききたい。

(様式3)